



平成 19 年 9 月 5 日

各 位

上場会社名 日本精密株式会社  
(JASDAQ コード番号 : 7771)  
代表者名 代表取締役社長 岡林 博  
問合わせ先 専務取締役 金 昌明  
(TEL (048)225-5311)

(訂正)「平成 19 年 3 月期 決算短信」の一部訂正について

平成 19 年 5 月 25 日に発表いたしました「平成 19 年 3 月期 決算短信」の一部に訂正すべき事項がありましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正の内容

4.連結財務諸表等の(重要な後発事象)および5.財務諸表等の(重要な後発事象)の内容の訂正

2. 訂正箇所(訂正箇所は下線で表示しております)

(1) 33ページ (重要な後発事象)

【訂正前】

(重要な後発事象)

当社は平成19年5月1日に株式会社宝屋の全株式を無償で取得すると共に、平成19年5月1日に第三者割当増資を引受け経常運転資金として100,000千円の出資を行い、当該会社を100%子会社といたしました。

株式会社宝屋の事業内容及び規模は次のとおりであります。

事業内容

日用品雑貨・化粧品の販売

規模(平成18年12月31日現在)

売上高 931,967千円

総資産 367,404千円

資本金 12,800千円

純資産 222,369千円

債務超過会社株式の取得及び当該会社への出資の理由は、昨年買収したグラフトン製品の開発と拡販の為であります。初年度より黒字化の予定であります。

## 【訂正後】

(重要な後発事象)

当社は、平成19年5月1日の取締役会決議に基づき、同日に株式会社宝屋の全株式を無償で取得すると共に、第三者割当増資を引受け経常運転資金として100,000千円の出資を行い、当該会社を100%子会社といたしました。

株式会社宝屋の事業内容及び規模は次のとおりであります。出資された100,000千円は、同日において株式会社宝屋がブラコム株式会社に振り出した期日前手形の買戻し資金として使用されました。

事業内容	日用品雑貨・化粧品の販売
規模(平成18年12月31日現在)	
売上高	931,967千円
経常損失	29,293千円
当期損失	32,528千円
総資産	367,404千円
資本金	12,800千円
純資産	222,369千円

なお、株式会社宝屋の最大債権者は、当社の主要株主篠邊貞道氏が議決権の92.5%を直接所有するブラコム株式会社であります。ブラコム株式会社は平成19年6月29日付で東京地方裁判所に対し、民事再生手続開始の申立てを行っております。

債務超過会社株式の取得及び当該会社への出資の理由は、昨年買収したグラフトン製品の開発と拡販の為であります。初年度より黒字化の予定であります。黒字化が達成できない場合は、多額の株式評価損等が発生する可能性があります。

(2) 50ページ (重要な後発事象)

## 【訂正前】

(重要な後発事象)

当社は平成19年5月1日に株式会社宝屋の全株式を無償で取得すると共に、平成19年5月1日に第三者割当増資を引受け経常運転資金として100,000千円の出資を行い、当該会社を100%子会社といたしました。

株式会社宝屋の事業内容及び規模は次のとおりであります。

事業内容	日用品雑貨・化粧品の販売
規模(平成18年12月31日現在)	
売上高	931,967千円
総資産	367,404千円
資本金	12,800千円
純資産	222,369千円

債務超過会社株式の取得及び当該会社への出資の理由は、昨年買収したグラフトン製品の開発と拡販の為であります。初年度より黒字化の予定であります。

## 【訂正後】

(重要な後発事象)

当社は、平成19年5月1日の取締役会決議に基づき、同日に株式会社宝屋の全株式を無償で取得すると共に、第三者割当増資を引受け経常運転資金として100,000千円の出資を行い、当該会社を100%子会社といたしました。

株式会社宝屋の事業内容及び規模は次のとおりであります。出資された100,000千円は、同日において株式会社宝屋がブラコム株式会社に振り出した期日前手形の買戻し資金として使用されました。

事業内容	日用品雑貨・化粧品の販売
規模（平成18年12月31日現在）	
売上高	931,967千円
経常損失	29,293千円
当期損失	32,528千円
総資産	367,404千円
資本金	12,800千円
純資産	222,369千円

なお、株式会社宝屋の最大債権者は、当社の主要株主篠邊貞道氏が議決権の92.5%を直接所有するブラコム株式会社であります。ブラコム株式会社は平成19年6月29日付で東京地方裁判所に対し、民事再生手続開始の申立てを行っています。

債務超過会社株式の取得及び当該会社への出資の理由は、昨年買収したグラフトン製品の開発と拡販の為であります。初年度より黒字化の予定であります。黒字化が達成できない場合は、多額の株式評価損等が発生する可能性があります。

以 上